

はぢをすて人に物とひ習ふべし

徳島文理高等学校一年（徳島県）

鹿島 熙子

先日、家にいらした外国人のお客様にお茶を一服差し上げる機会があった。前回の来訪の時には、盆略点前でお茶を差し上げた。今回は、少し背伸びをして、寿棚を使った薄茶点前にチャレンジしてみた。ちょうど今年四月に高校生になってから、茶道部でも棚を使った薄茶点前を教えていただいている。人前で点前を見られる自信が少しづついていたのだ。

お菓子もお茶も楽しんでいただいて、点前の最後に差し加かったころ、

「Why are you turning back the water?」

との問いがあった。湯返しに疑問をもった様子だった。英語での返答もさることながら、その問いには日本語でさえも答えることができなかった。

私は急に恥ずかしくなった。さっきまでの「私のお点前をみてちょうだい」の自信が吹き飛んでしまった。

「棚は台子が基本だからね。杓立に柄杓を戻すために露を切るのよ」と母が助け船を出してくれた。しかし、それは中途半端な助け船に終わってしまった。なぜなら、母は英語を助けてはくれなかったからだ。

学校の茶道部で、ご指導をくださっている春藤宗美先生は何でも物知りで、私たち部員に愛情を持ってくださったことを教えてくださる。去年中学生の頃にいただいたプリントを思い出して、数奇屋袋の中から取り出してみた。

「はぢをすて人に物とひ習ふべし是ぞ上手の基なりける」

「One should abandon feelings of embarrassment and ask people questions this is the keystone to becoming adept.」
利休百首とその英訳のプリントの中から、この一首が私の心に深く飛び込んできた。

「人に訊くのは一瞬だけれど、知らないのを通すのは一生の恥になるからね」

という春藤先生のお話も脳裏に蘇ってきた。

私が茶道を続けている理由のひとつに、日本の良さを外国の人にも伝えたいということがある。日本人として、日本のこと、とりわけ日本独自の文化についてよく知りたいのだ。

点前の順序を知って点前ができるようになったから、少し天狗になりかけていた。もっと本質の茶道の心を知らなければならぬのだ。まだ高校生、道はきつと長いだろう。

だが、この利休百首を胸に刻み、訊くことを恥と思わず、ほかの人からたくさんのことを学び続けていきたい。

今度、同じお客様がいらしたときには、照れ笑いでごまかさずに、きちんと「湯返し」について説明してみよう。そして、私の知らないことがあれば、そうだ、貴国の文化についても訊いてみよう。もちろん、美味しいお菓子やお茶、おもてなしの心も忘れずに。